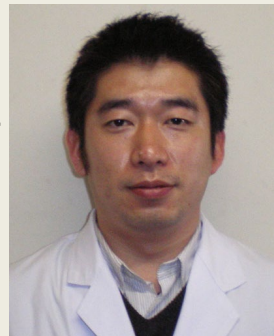


ストレスに強い脳と弱い脳の 分子・神経回路メカニズム



講師：内田周作 准教授

名古屋市立大学 大学院医学研究科
統合解剖学

日時：2024年9月17日（火）17:00～

場所：名古屋市立大学桜山キャンパス

医学部研究棟11階 講義室B

本セミナーはZOOMによるオンライン配信も致します。オンライン
での参加は下記URL又はQRコードからログインしてください。

URL：<https://us06web.zoom.us/j/88006144304>

ミーティング ID: 880 0614 4304 パスコード: 20240917



過度なストレスはうつ病を含む様々な疾患の主要なリスク要因である。うつ病などの多くの精神疾患は単一疾患ではなくヘテロな症候群とされるが、慢性ストレスによる症状の多様性を生み出す脳内メカニズムは不明である。我々は、慢性ストレスに晒されたマウスを、行動変容パターンに基づいて4つのサブタイプに分類し、サブタイプごとの脳内分子神経メカニズム解明を試みた。このコンセプトにより、慢性ストレスによる行動変容パターンの個体差を決定する神経回路とその駆動原理としてのエピジェネティクス制御分子を同定した (Li et al., 2024)。一方、麻酔薬ケタミンが即効性と持続性を有する新たな抗うつ薬として期待されているものの、重篤な副作用が懸念されており、また、その抗うつ作用メカニズムも不明な点が多い。我々は副作用が少なく持続的な抗うつ作用を有するケタミン代謝産物を見出し、その作用発現に必須の脳内部位と分子メカニズムを同定した (Kawatake-Kuno et al., 2024)。本発表では、上述のストレスやケタミンによる行動変容を担う神経回路・細胞・分子の多階層解析の成果について紹介したい。

(参考文献)

Li et al., *Neuron* 2024

Kawatake-Kuno et al., *Neuron* 2024

Inaba et al., *Science Advances* 2023

世話人：山川和弘（医学研究科・神経発達症遺伝学分野）

TEL: 052-851-5612, E-mail: yamakawa@med.nagoya-cu.ac.jp